

10年間の気温を集計

(岩倉辻)

入後の日録(気温測定をはじめ)と牛年に寄附した下駄は、干りました。ついでに「う」や「ん」と讀く、年若い二十二年、最近十年間の記録をまとめあげた。一年に晴大、五月一日に霧上度、廿四雨大伺目、一七霜が降ったなどである。最長は四十一年八月十七日の三・五度です。これは小学校教員名で以後、晴究明につけおの、本における貴重資料といえる。人は、私設校長ともいふ。

○ここにあらのが昭和三十八年から十一年間の記録をとめたものかもしませんが、大体の傾向はある。

ので、(一冊のノットを)しなが
つがめるはずで
す。これが、年ごとのクラフです
その年の台風の足元を記したの
はこれです。今、八十歳ですが
これまで病気をしなかつたので一
日も休まずに記録することができ
ました。

●十年間を集計したのが、こ
れです。則定時刻は毎半です。各
地の気象状況

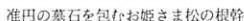
日 報道による
の鳴き声を聞いた



あじす
再発見

お姫さま松

毛利元就の孫、古満姫（こまんぎめ）が愛し子の死を嘆いて植えた松引野の明栄寺の前方、小高い丘の墓地に今もその面影をとどめています。



うになった。

そこへ萩の清光寺を開基した

そのころ、明栄寺は浜倉から移つて間もないところで、建物も新しく、養したが、母・古瀧姫の手厚い看護のかいもなく一六四六年亡く

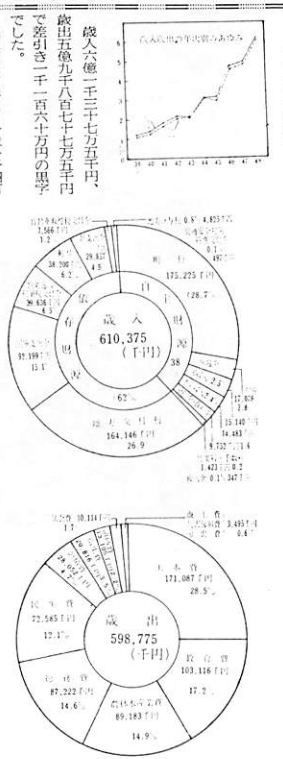


の根幹

言ひ伝えによると、古満姫は三百十四年前に亡くなった人だが、はじめ広島の小阜川秀秋と結婚、夫と死別のと、京都興正寺門跡の准尊と再婚、三男一女をもつけた。

こでも夫と死別し、子どもを
育てあげて一人になると幼ころ
過した長門・周防の国が恋しくな
り、かねて毛利輝元（從兄であ
り、養父でもあった）からもらつてい
た化粧料としての領地が阿知須に
あったことからここに移り住む。

四十八年度町一般会計は黒字

[illegible]

歳入面は前年より一億二千四百九十万円余ふえ、二三・二%の伸び率。歳入のうち町税収入が二八・七%を占めて最も多く、ついで、七%を占めて最も多く、ついで、困からの地方交付税二六・九%。

善意は二二に

[illegible]

〔社会福祉協議会へ〕
 ◇香典返し▽一万円 藤永ミツノ
 さん(砂三)は夫光市さんの▽二
 万円 西田久直さん(砂三)は妻
 久恵さんの▽一万円 大下豊一さ

特別会計▽
老人一人当りの医
養費十二万六千円
と二人当り年間十
五万円を払われた
計算。
簡易水道事業
繰入・繰出が七十
百千

ん(岡)は母モミさんの▽三万円
 真藤巖さん(西条)は長男巖さ
 んの、上杉春見さん(小東)は母
 シツさんの▽三万円▽大井光子さ
 ん(小南)は夫正隆さんの香典返

<p>国民健康保険事業</p> <p>歳入七百九十九万八千円、歳出七百一十八万五千円、差引き七十四万四千円の黒字。歳入総額の五九・八％が国庫支出金、個人納める保険料は〇・％。歳出の</p>	<p>九千円、一般計から百七十七千円繰入れしています。</p> <p>給水戸数は八百七十四戸。</p> <p>交通共済事業</p> <p>歳入三百七十三万八千円、</p>
--	---

一 般 寄 付 ・
 △一 万 一 千 七 百 二 十 六 円 〓 原 田 五
 油 店 (飛 石) △三 千 四 〓 沢 田 隆 吉
 さ ん (源 河)

八二、三が医療費等の保険給付
三百七十七万七千円で差引き五
万一千円の黒字。
被保険者が納める保険料は一人
均九千三百三十六円、これ対
して一人当りの医療費支払は三万
三千百一十円、老人だけであ

▽五万円―古川良雄さん（野口）
▽二万五千円―昭和三十七年度愛

短歌

みんなの
お花壇

あなたの文芸作品の
意見お気づきのこ
となど発表表のもの
を寄せてください。

浜 正司ツツメノ
小西 平海アサノ
砂一 松代 二郎
飛石 砂村ヤミ子
岩西 中本 茂枝
岩西 中本 幸枝
岩西 蘇永ツツメノ
砂三 藤永ツツメノ
岩西 初春のしづめを御座る 雲二ニール
びじをいつはめる言
砂三 蘇永ツツメノ
大庭遊て四十九日に夢千き祈り
にすすわれの日日かな
岩西 中本 幸枝
岩西 一人夢切りの日
暇かき陽さの続く機知日山田に
一人夢切りの日
岩西 中本 茂枝
岩西 雪降の日帰りの見れば日のセータ
母指を編み上げとけ合居る
砂一 松代 二郎
飛石 砂村ヤミ子

一 金を数える
 一 卒業生 同 一万二千五百円
 一 卒 業 生 同 八千年度卒業生 二 同 万
 一 千 円 と し の 成 名 一 同
 一 古川さんと三十年代阿中工業
 の寄付金計七万五千元は同様の
 外用の時計を設置する予定
 一 井岡小学校へ
 一 五井川良雄さん（野口
 一）

車中にて人形街道を横付けはマ
 ケットの注連飾を

正月ゆづりや 過ぐるすらすら
 十露が雨の水氷切りり

慶弔録

出生（おすこやかに）

父 緒柄 子の名目 部落
 西村恭 長男重信49 122 野口
 （養母）
 妻 菊川 長男 貴 善 16 南祝
 松重孝 二 男 康 次 30 南祝
 原田元成 長男 竜 作 29 前山
 砂村孝一 砂村野上 小西

婚姻（おしあわせに）

米澤盛一 東
 妻 美子 亦野山口市市井
 浜田仲夫 砂三
 サツキ長谷川厚徳部山陽町
 砂村野上 小西

田安明 長男 勉 20 砂一
 中本 敏一 男 雄 三 17 西条
 国弘久 長男 和 久 26 小南

三子千円	伊藤聖三さん・熊手郡	吉谷彰生	四女 礼子	22 西条	中原久一	杖川
三子千円	伊藤聖三さん・熊手郡	福嶋久雄	長男 利久	28 井開	初枝上田	宇部市生野
三子千円	伊藤聖三さん・熊手郡	田中重弘	長女 由希子	28 比須	中本増忠	岩根
三子千円	伊藤聖三さん・熊手郡	杉山 馨	長女 真奈美	31 槻瀬	死亡	島根県出雲市
三子千円	伊藤聖三さん・熊手郡	河野聖二	二女有子 51 赤道	死亡	(冥福を祈ります)	
三子千円	伊藤聖三さん・熊手郡	工藤俊一	長女 恵美	15 桑地	氏名 死亡	宇部 部落
三子千円	伊藤聖三さん・熊手郡	松永次郎	一男 純市	6 荒瀬	真藤 薫	12・29
三子千円	伊藤聖三さん・熊手郡	杉山敬一	二男 学	11 北沢	吉川入ノ	1・2
三子千円	伊藤聖三さん・熊手郡	長女 映子	14 日東	大下	モミ	1・2
三子千円	伊藤聖三さん・熊手郡	長女 映子	14 日東	大下	モミ	82 岡

奥市広町	新聞新報	銀白房		工藤等	長女 真由美	12小西	池田 喜一	1.3	76	秒三
堀北出身	▼一万円	川崎寛三		水本 保	長男 貴哲	15井開	藤谷 政教	1.4	55	西条
中京都築区東金町云々(五)				高井勝南	長女 裕香	19江北	藤野 イツ	1.5	74	細な
十六(重)須出身	はそれぞれ			石丸正樹	長男 忍吉	20岩倉	中野 アイコ	1.9	79	砂一
(原紙送料)して				田辺一則	長女 里美	22岩西	石川 恵子	1.30	27	岩西前

本は「つ芽ふき
 はじめしむ」
 町から札幌市にたってきた。
 ところが活躍のしるから、故郷を
 懐かしみがこねんがとの手
 紙をいだけることがあります。
 本紙がうした人たちのきすな
 花いっぱい運動を進めために各
 団体の花の種子を配り、手入